

GW 登山と西日本の旅

藤井 諭

2019年のゴールデンウィークは4月26日から4泊5日で西日本を自家用車で走り回り、4箇所を楽しみむことができた。中国道、名神道、中央道を経て長野県の中央アルプスへ登り山中で2泊した。下山して中央道で移動し岐阜城のある金華山に登り、三重県の四日市に宿泊した。四日目は二百名山の御在所岳に登り、奈良県下市口に宿泊。最終日は和歌山県の高野山に登って世界遺産を参拝し、阪和道、近畿道を経て中国道で帰路に着いた。時あたかも平成最後の日だった。走行距離は1420km、タブレットに入れたY!カーナビの案内に従って運転した。ドライブはトラブルもなく快適な登山旅行だった。

【雪の木曾駒ヶ岳】

木曾駒ヶ岳(2956m)は今回3回目の登頂となるが積雪期では初めてだ。予期せぬ吹雪とホワイトアウトに見舞われた厳しい登山だった。風が強く冬山装備でも体が冷え切った。幸い駒ヶ岳に登頂後、早めに宝剣山荘に入ることができたが、吹雪に見舞われた登山者たちが次々息を切らして駆け込んで来た。この日北アルプスでは槍ヶ岳、立山、北ノ股岳、唐松岳で遭難があり4人が死亡したことは下山後に知った。

翌日は天気が回復し、素晴らしい日の出を撮影することができた。伊那前岳から望む大展望は圧巻の撮影だった(右写真)。宝剣岳の奥に三ノ沢岳、空木岳、真下に広々した千畳敷カールと赤い屋根のロープウェイ駅。北に目を移すと前日登った駒ヶ岳と中岳、奥に乗鞍岳、笠ヶ岳、穂高連峰。東には南アルプスと富士山が続いた。



思わぬ新雪で登りも下りも私がトップとなり、純白の斜面に初めてのトレールを作った珍しい山行だった。3000m近い高峰はGWでもまだ冬山である厳しさを実感した山行であった。

【岐阜城の金華山】

4月28日(日) 中央アルプスから御在所岳への移動の途中、一度訪問しなかった金華山の岐阜城に登ることにした。信長ファンとしては、上洛への拠点となった標高329mの金華山にある山城は興味深い。故郷の月山富田城が標高184mで難攻不落と言われたが、岐阜城は2倍近く高い!

天守閣(右写真)からの眺めは素晴らしく、名古屋市街まで続く広大な濃尾平野が広がった。下を長良川がゆったりと流れ、東には真っ白な御嶽山が雄大だった。展示物では信長の正妻で斎藤道三の娘「濃姫」の模写絵が印象に残った。

帰りは馬の背登山道を下ると、多くの登山者に出会ったが、急坂に誰も息を切らしていた。先日登った月山富田城は本丸への登りが急できつかった。この城はその2倍

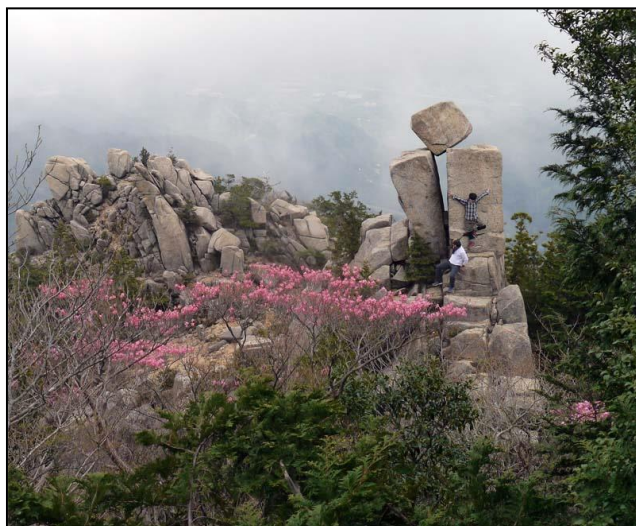


の標高があるのでさらにきつい。昔の侍たちは登山がよほど得意だったのだろうか？下りた登山口に「織田信長公居館跡」があり、信長は普段はここで政治を行った模様だ。戦の時だけ天守閣へ登ったのだろうか？

【花崗岩の美しい御在所岳】

平成も明日で終わりの記念の日、岩の殿堂の御在所岳(1212m)に登った。自家用車で中道の登山口へ上ると道路わきまで駐車できっぱい。おそろおそろ駐車場に入ると、たまたま出る車と交代できてラッキー！

中道は入口で登山届を出す。いきなりの急坂に喘いで登る。この時期はヤシオツツジが登山道を彩りピンクに彩られて美しい(右写真)。全山が花崗岩の山であり、岩場のアップダウンに飽きることはない。どの岩も御影石でりっぱな墓石？になりそうだ。この中道は老若男女のたくさんの登山者の登る人気のコースだ。所々に鎖やロープが現れ、岩はフリクションが良く効き変化に富んだ登山道だった。ロープウェイで登るのはもったいない。登山道は他に裏道、表道、峠道もある。



山頂は雲の中で琵琶湖、比良山、伊勢湾などの大展望がないのは誠に残念だった。花崗岩の岩場の連続が素晴らしく、さすがは二百名山だ。四日市から遠望した鎌ヶ岳はそそり立ち雄大で、御在所岳から縦走したかったが雲の中では展望もないので諦めた。

下山後新名神道を甲南 IC で下りて南下し、25 号線で天理を経て京奈和道で御所南 IC まで。一般道を南下し宿のある奈良県下市口に着いたら雨が降ってきた。

【平成最後の高野山】

4 月 30 日(火)旅の最終日は平成最後の日。雨模様のため山上ヶ岳の登山は中止し、世界遺産の高野山の参拝に変更した。

つづら折りの 370 号線を延々と登ると、やっと高野町の街が見えてきた。観光客で溢れて街の中心の駐車場は満車。中心街を少し過ぎた所に駐車場を見つけてホッとす！カメラ片手で身軽に散策を始めた。

高野山はたくさんの寺院の総称だ。その中心の金剛峯寺はりっぱ！さすがに空海の開いた真言宗の大本山だ。まず入り口では、平成最後の日の御朱印を求める長蛇の列に驚いた。次々と現われる広間は由緒ある屏風絵で飾られ、日本美の枯山水庭園が回りを飾っていた。新別殿でお茶をふるまわれ、お坊さんから講釈があった。この 24 日に生まれたばかりの孫のお祝いに子供のお守りを購入した。次はきらびやかな赤色の大塔(右写真)。中は撮影禁止だったがたくさんの金色の大仏様だった。その北にはシックな作りの大きな金堂があった。



思い起こせば 30 年前に山友達と高野山を訪れているが、これらのお寺が記憶になるのは当時何を見ていたのだろうか？と思った。年取って初めてその価値がわかる。御土産に高野豆腐を買い、清々しい気持ちで島根への帰路についた。